豊田工業高等専門学校	開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	経済学 I

科目基礎情報

科目番号	04111	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	情報工学科	対象学年	4
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	テーマに応じて資料を配布する。/テキストは特に指定しない。		
担当教員	長谷川 拓彌		

到達目標

（ア）歴史的・地理的背景を踏まえつつ、経済の歴史の展開に関して理解できる。
（イ）地域や時代による経済的発展の多様性を理解することができる。
（ウ）歴史家が取り扱った主題を捉えなおすことができる。
（エ）西洋経済の歴史を学ぶことで、現代の社会や経済状況を相対化して捉えられる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目(ア)	現代の社会・経済を、その歴史的背景を踏まえて考察できる。	経済活動とその発展の歴史的・地理的背景について理解できる。	経済活動とその発展の歴史的・地理的背景について理解できない。
評価項目(イ)	歴史的な経済の発展過程の多様性を理解し、現代の経済問題について考察できる。	歴史的な経済の発展過程の多様性について理解できる。	歴史的な経済の発展過程の多様性について理解できない。
評価項目(ウ)	歴史家たちが扱った主題を、現代社会の問題との関連で捉えなおし、考察できる。	歴史家たちが扱った主題を捉えなおすことができる。	歴史家たちが扱った主題を捉えなおすことができない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 C2 世界の文化・歴史を理解し，人間に対する配慮を怠らない.
JABEE a 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
JABEE b 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任
本校教育目標 ① ものづくり能力

教育方法等

概要	人間の経済活動は人類の誕生以来続いてきた。とはいえ、そのあり方は一様なものではなく時代や地域により大きく異なるし、その変化・発展の道筋も異なる。本講義では、主に西洋の経済史について学ぶことで、地理的・時代的背景を踏まえつつ経済活動の在り方を振り返り、その多様なあり方と、現在に至るまでの経済成長の過程を考察する。
授業の進め方・方法	基本的に毎回資料を配布し、その内容に沿って授業を進める。また状況に応じて、授業内容に関する発言を受講者に求めることがある。
注意点	授業内容に該当する項目について，科目担当教員の紹介する文献などを中心として、継続的に復習を行うこと。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス： 講義全体像の紹介	経済史学と経済学の違いについて理解できる。 紹介した文献を参照し講義内容を復習する。
		2週	経済史とは何か？	経済史の対象や方法、問題の概要について理解できる。 配布資料や紹介した文献を参照し講義内容を復習する。
		3週	古代の経済活動	講義で紹介した古代の経済活動の概要を理解できる。 配布資料や紹介した文献を参照し講義内容を復習する。
		4週	中世の経済活動と封建制	中世ヨーロッパの経済活動の特徴を理解できる。 配布資料や紹介した文献を参照し講義内容を復習する。
		5週	大航海時代と商業	大航海時代による経済的影響について理解できる。 配布資料や紹介した文献を参照し講義内容を復習する。
		6週	産業革命とイギリス	イギリスにおける産業革命の概要について理解できる。 配布資料や紹介した文献を参照し講義内容を復習する。
		7週	産業革命の拡大と後発国の優位性	産業革命の諸国への拡大の概要について理解できる。 配布資料や紹介した文献を参照し講義内容を復習する。
		8週	理解度の確認①	これまでの講義内容について習熟度合いを確かめる。 これまでの講義内容を復習する。
	2ndQ	9週	第一次世界大戦とアメリカの覇権	第一次世界大戦とその経済的影響について理解できる。 配布資料や紹介した文献を参照し講義内容を復習する。
		10週	世界恐慌と第二次世界大戦への道	世界恐慌と第二次世界大戦の概要について理解できる。 配布資料や紹介した文献を参照し講義内容を復習する。

		11週	第二次世界大戦後の世界経済	第二次大戦後の世界的経済状況の概要を理解できる。 配布資料や紹介した文献を参照し講義内容を復習する。
		12週	マルクスと史的唯物論	史的唯物論の概要について理解できる。 配布資料や紹介した文献を参照し講義内容を復習する。
		13週	ブローデルとアナール学派	アナール学派の概要について理解できる。 配布資料や紹介した文献を参照し講義内容を復習する。
		14週	ウォーラステインと世界システム論	世界システム論の概要について理解できる。 配布資料や紹介した文献を参照し講義内容を復習する。
		15週	理解度の確認②	地理的・歴史的特殊性を踏まえつつ、現代社会へと至る経済的成長の特質などに関する問題を設定し、経済史の観点から適切に論述できる。配布資料や紹介した文献を参照し講義全体の内容を復習する。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民的分野	自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	
				複数の情報を整理・構造化できる。	3	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3	
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	3	
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3	

評価割合

	定期試験	課題	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	80	20	100